

スポーツアワード

がんばる小・中学生!!

小学生

- 第41回茨城県少年空手道選手権大会
 - 優勝 個人戦小学3年生男子A 組手の部 館野風人(菅堤山道場)【JKAアジア・オセアニア大会出場】
- 第12回全国小学生学年別柔道大会 茨城県予選
 - 優勝 個人戦5年生女子40kg超級の部 青田れもん(下妻優心塾)【全国大会出場】
- 第32回茨城県スポーツ少年団スポーツ大会空手道大会
 - 準優勝 個人戦小学4年男子有段組手の部 中山定治(優和会空手道)【関東大会出場】

中学校

- 茨城県民総合体育大会県西地区大会
 - 優勝 男子ソフトボールの部 下妻中ソフトボール部【県大会出場】
 - 優勝 ソフトテニス団体女子の部 下妻中ソフトテニス部【県大会出場】
 - 優勝 ソフトテニス個人女子ダブルスの部 大久保由希・初澤夢空ペア(下妻中)【県大会出場】
 - 優勝 陸上共通男子4×100mリレー 酒井良彰・高橋竜成・古澤一杜・清水柊平・八角啓斗(下妻中)【県大会出場】
 - 優勝 柔道個人女子70kg超級 白石桃子(下妻中)【県大会出場】
 - 優勝 柔道個人男子66kg級 森望(下妻中)【県大会出場】
- 茨城県民総合体育大会県大会
 - 優勝 ソフトテニス個人女子ダブルスの部 田島瑞希・溝口結彩ペア(下妻中)【関東大会出場】
 - 優勝 男子ソフトボールの部 東部中ソフトボール部【関東大会出場】
 - 準優勝 男子ソフトボールの部 下妻中ソフトボール部【関東大会出場】
 - 準優勝 ソフトテニス団体女子の部 下妻中ソフトテニス部【関東大会出場】
 - 準優勝 軟式野球の部 千代川中野球部【関東大会出場】
 - 第2位 陸上共通男子3000m 町田峻輔(下妻中)【関東大会出場】
 - 第3位 ソフトテニス個人女子ダブルスの部 佐久間莉奈・倉持琴海ペア(東部中)【関東大会出場】

田町自治会の夏祭り、平成27年度宝くじの助成を受けて新調した山車が披露されました。これまでの山車は約40年前に地区住民が製作したもので、老朽化が著しく、地域活性化のため新しい山車を望む声が高まっていました。

新調した山車は、東部囃子連による軽快な祭囃子を響かせながら町内を練り歩き、勇壮な姿が沿道の人たちを魅了していました。

東部囃子連の森栄会長からは「山車が新調され、多くの笑顔、称賛の声の中で楽しく、立派な夏祭りができ、今まで以上に地域の一体感が生まれた」と喜びの声が聞けました。

この助成は、宝くじの社会貢献広報事業としてコミュニティ活動に必要な施設や備品を整備するために行われるもので、田町自治会では今後も、地域の伝統行事を守りながら、後継者育成や住民間の交流を深めるなど、より一層の地域活性化が期待されます。



新しい山車で祭囃子を演奏する東部囃子連

宝くじ助成事業でコミュニティ活動を推進
田町自治会夏祭り 7月19日



堤防法面などの亀裂拡大を防ぐ「五徳縫い」の訓練に取り組む団員たち

風水害に備え5市町合同で水防訓練
第56回鬼怒・小貝水防連合体水防訓練 7月5日

風水害に備えて水防工法を体得する「第56回鬼怒・小貝水防連合体水防訓練」が、つくば市小貝川スポーツ公園（小貝川左岸・平和橋下流）で行われました。本市のほか、つくば市、常総市、つくばみらい市、八千代町の水防関係者約300人が参集しました。

訓練は、茨城県常総工事事務所と土浦土木事務所の指導のもと、伝統的な水防工法の「木流し」「シート張り」「折り返し」「五徳縫い」「積土のう・月の輪」を実施。小雨が降り続く中、本市からは市消防団の第5・第6分団から選抜された精鋭20人が参加しました。

訓練に参加した第5分団第2部の猪瀬正信部長は「竹など身の回りにあるものを水防工法に生かす技術を学べた。結構な重労働だが、団員たちは普段からまとまりがあるので、非常時にも率先して活動できるようにしていきたい」と力強く語りました。



下妻の特産品を堪能する参加者

都内で下妻市の特産品や観光をPR
茨城県人会連合会総会・懇親会 7月3日

東京都文京区の椿山荘で開催された「茨城県人会連合会」の懇親会で、下妻市の特産品や観光をPRしました。

同会は、東京都およびその近郊に在住・在勤する茨城県出身者で組織され、総会後の懇親会には各界で活躍する関係者約500人が参加しました。

本市の出展コーナーでは、ビアパークしもつまの地ビールや下妻産の新鮮青果物、ウイマムの手作りウィンナー、飲むヨーグルトなどの特産品を提供し、観光・イベント情報と合わせて下妻市をPRしました。

タカミメロンを試食した50代の女性は「柔らかくて、みずみずしく、甘くて非常においしい」と話し、市職員がPRする四季折々の野菜や果物の情報に耳を傾けていました。

まちのわだい

Town Topics

国蝶オオムラサキを間近で観察
オオムラサキ観察会 7月2日

国蝶オオムラサキが棲む小貝川ふれあい公園・自然観察ゾーンで、「オオムラサキ観察会」が開かれました。市内外から親子連れや蝶の愛好家など約30人が、自然に飛び交うオオムラサキの貴重な姿を探そうと森林を散策しました。

オオムラサキは全長10～14センチ、オスは鮮やかな紫色の羽が特徴で、6月頃から羽化が始まります。観察会は、「オオムラサキと森の文化の会」(本橋孝夫会長)が毎年開催しています。

参加者は森林に入り、会員たちと10分ほど探すと、クヌギの樹液に集まる2匹のオオムラサキを発見。スズメバチと樹液を奪い合う姿に見入っていました。

水戸市から夫婦で参加した宮永武久さん(74)



クヌギの樹液を吸うオオムラサキ

は「国蝶のオオムラサキを一度見てみたいと思っていた。自然の中で観察できて、来たかいがあった。きれいな蝶で威厳を感じました。」と話していました。



オオムラサキにカメラを構える参加者たち

ほっとしぽ・ライン

Hot Repo Line 市民の声

戦後70年を迎える今年、戦争を体験した田宮フミさん(下妻丁・浦町)からのお便りを紹介します。

今年には戦後七十年。私は八十才。傘寿を記念して薄れ行く記憶を記すことにしました。

昭和二十年、国民学校五年生の時、私達家族は日立市本山と云う所に住んでいました。父は兵隊に行き、留守、母と妹五人暮らし。

警戒警報の時はまだ学校に行けるのですが、空襲警報になると休み中でも家に帰る決まり。戦争もたけなわ、日立製作所が学校の近くにあったので、襲撃を受けたその朝だったと思います。

警戒警報とB29(飛行機)の轟音。空襲警報のサイレンと物凄いB29の編隊が製作所目掛けて行く途中、一機だけ急降下して来て、上級生が渡り廊下を渡って

私の戦争体験

いる時、銃撃を受け倒れ怪我したと、次の日先生からのお話で製作所も壊滅したとのことでした。

それから一ヶ月ほどしてのこと、雨の降った夕方でした。突然空襲警報がなり、防空壕へ入るよう自警団の人が廻って来たので、私達は急いで、母は二才の弟をおんぶし、私は生れて四ヶ月の妹をおんぶし、一年生の妹と防空壕へと行きました。

中は避難する人達で一パイ。真暗な防空壕、誰も何も云えないほど恐怖に怯えていたのかも知れません。聞きなれない音、地響と雷が一緒の異様な音。怪我人がいるからと自警団の人達が入って来た。こんな山の中でもこれじゃ日本も終わりだなと誰かが云った。その怪我人は、艦砲射撃だ。今、海の方から砲撃を受けている。町はひどい。一トン爆弾、焼夷弾の爆撃を受けて空は真赤になっていた。戦争は怖い。一瞬にして火の海になったことを忘れられない。